

まちなかにもふれあいとやすらぎの場所を 「シャッターオープン・プラス事業」の活用

市内の空き店舗を利用して起業する方を応援する「シャッターオープン・プラス事業」。この制度を活用して、平成25年9月30日に吉番館一階にオープンしたのが「まちかカフェ」です。

店主の本間知里(ちさと)さんは「震災以降、市内にゆっくりとくつろげるお店がなくなってしまったので、気軽に立ち寄れて幅広い世代の方々が交流できる場所を作りたい」という思いでオープンしたそうです。ここではカフェの営業以外に、地酒などの特産品を使ったイベントや講座の場所として利用されています。今では月10種類ほどの講座が行われており、参加者の憩いの場となっています。

「今後もたくさんの方の触れ合いの場として活用してもらえよう、講座の種類を増やしていきたい」と話してくれました。今年もこの事業の募集をします。多くの方が活用することで、まちのにぎわいを生み出さずにはなるといいですね。



▲本間知里さん「毎日シニアの方から元気をいただいています。」



▲編み物講座の様子

シャッターオープン・プラス事業募集

市内の空き店舗を賃借して起業する方に市が費用の一部を補助します。

対象 平成28年3月31日までに空き店舗・1階で起業する方(一部既起業者含む)で、地域資源を活用または、商業復興・にぎわい創出に寄与する事業※小売業またはサービス業で一定の条件を充たしている方

支援内容 賃借料、内装設備工事費の一部補助

応募期限 6月30日(火)

応募方法 必要書類を持参にて(土日祝除く)

選考方法 審査の上選考します。

☎ 商工港湾課商工係 ☎ 364-1124

景観コラム 『景観十年、風景百年、風土千年』

古代文学に描かれた「塩竈の自然景観」

本市の風景が、古代文学などに描かれていることをご存じですか。例えば「塩竈」「千賀の浦」「籬島」「野田の玉川」など、歌枕の地として数多くの歌に詠まれており、紫式部をはじめとする著名な都人の歌が三百首以上残されています。しかし、それ以上に本市の自然景観を名高いものにしたのは、平安時代、光源氏のモデルといわれる源融(みなもとのとおる)が、京都市下京区本塩竈町周辺に本市の海景色を模した大庭園(河原院)を築いたことです。この話は、平安時代の歌物語「伊勢物語」の第八十一段「塩竈」に書かれており、「我が国六十余国のうち、塩竈という所におよぶ風景の所はなかった」と賞賛しています。さらに宇治拾遺物語や今昔物語、世阿弥の謡曲にも描かれており、その大庭園は源氏物語に登場する「六条院」や「某の院」のモデルといわれています。茶道や香道の道具にも描かれる塩竈の自然景観。千年の時を越えて再び「塩竈という所におよぶ風景の所はない」と賞賛されるよう、景観を守り育てていきましょう。

【参考文献：塩竈市史 I 本篇】



小倉百人一首でおなじみの河原左大臣源融(みなもとのとおる)



まがさ 籬島(新浜町一丁目)

京都市下京区本塩竈町付近には「籬の森」という地名が残っており、往事の大庭園に「籬島」が再現されていたといわれます。

☎ 都市計画課まちづくり推進係 ☎ 364-2510

防災行政無線で放送された内容を再確認したいときは、自動音声で放送内容を聞くことができます。

防災行政無線確認電話 ☎ 364-1260



エフエムベイエリア (FM78.1Mhz) でも防災行政無線の内容や防災情報を放送していますので、災害時にはラジオを活用ください。

【塩竈市の人口】 H27.4.30現在

住民基本台帳調べ (前月比)
人口 55,712人(-40人)
男 26,604人(-3人)
女 29,108人(-37人)
世帯数 22,960戸(+35戸)